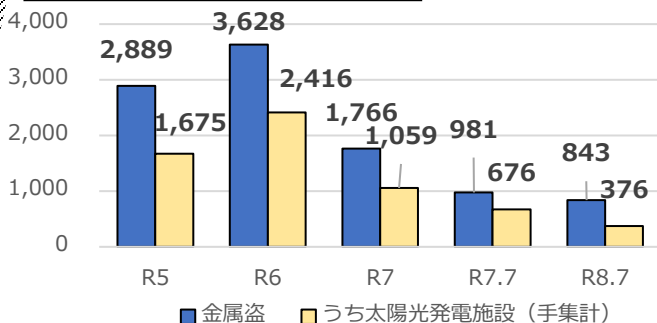




金属類を対象とした窃盗事件の発生状況

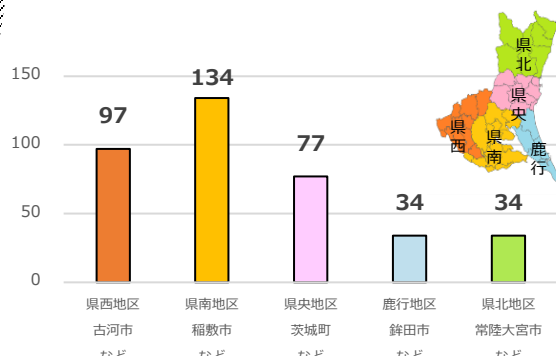
1 金属盗の発生件数（暫定値）



茨城県は、金属盗の発生件数が **全国 2 位**
発生件数は、昨年同時期 **約 14% 減**
太陽光発電施設での被害が **約 45%**

太陽光発電施設関係の発生状況

2 令和8年7月末の地域別の発生件数（暫定値）



県南地区で約 4 割
小規模太陽光発電施設での発生が多い

金属盗等の現状と対策

銅の価値はいまだ上昇中



日本銀行が発表している国内企業物価指数（2026年7月速報）では、前年同月比で非鉄金属（鉄以外の金属）は40.6%、スクラップ類は29.1%上昇しています。今年に入り銅建値はキロ2000円を超え、高値を更新し続けています。非鉄金属の価格上昇が続き、金属の換金価値が高まることで、特に屋外に設置されていて持ち取りやすい金属製品は、盗難の対象となるリスクが高まります。

アルミは銅と比べると価値は約4分の1ですが、アルミケーブルドラムが盗まれる被害が確認されています。屋外で固定・連結せずに保管していたものが狙われました。

価値が低くても大量に盗めばそれなりの金額になります。窃盗犯人は「時間をかけずに、簡単に盗めそうなもの」を狙っていますので、「価値が低いから大丈夫だろう」と油断せずに、鍵のかかる倉庫内に、固定・連結して保管しましょう。

太陽光発電施設被害抑止対策

銅線ケーブルがケーブル管内で固定されていたので、犯人が断念した事例があります。

- ・ フェンスセンサーやワイヤーセンサーの導入（異常時に通知を行うもの）
- ・ 機械警備の導入（ケーブル切断などの異常を感知し、通知を行うもの）
- ・ 警報装置の設置（音や光で犯人を威嚇し、周囲に異常を知らせるもの）
- ・ 引込柱や集電箱へのフェンスやカバールの設置（ケーブル切断対策）
- ・ ケーブルが引き抜かれないための対策（埋没・ケーブル管内の固定など）
- ・ 防犯カメラ（AI・警報機能付き）などでの夜間監視体制の強化
- ・ アルミケーブルの導入
- ・ センサーライトなどの照明機器の設置

エアコンの室外機内部にも銅線、銅管が使われています。コンクリート土台に盗難防止ナット等で固定するなど盗難対策をお願いします。

室外機の盗難防止対策



金属盗対策、推進中！

警察では、犯罪発生状況を分析した結果を踏まえパトロールを強化しています。

7月中、水田のバルブ、太陽光発電施設や工場等からケーブルを盗んだ金属窃盗犯人を検挙しています。

県警HPや防犯アプリ（いばらきポリス）にて検挙情報を掲載しています。 ※情報は随時更新

ケーブル露出部分が切断されやすいため、物理的に切れない対策をお願いします。

